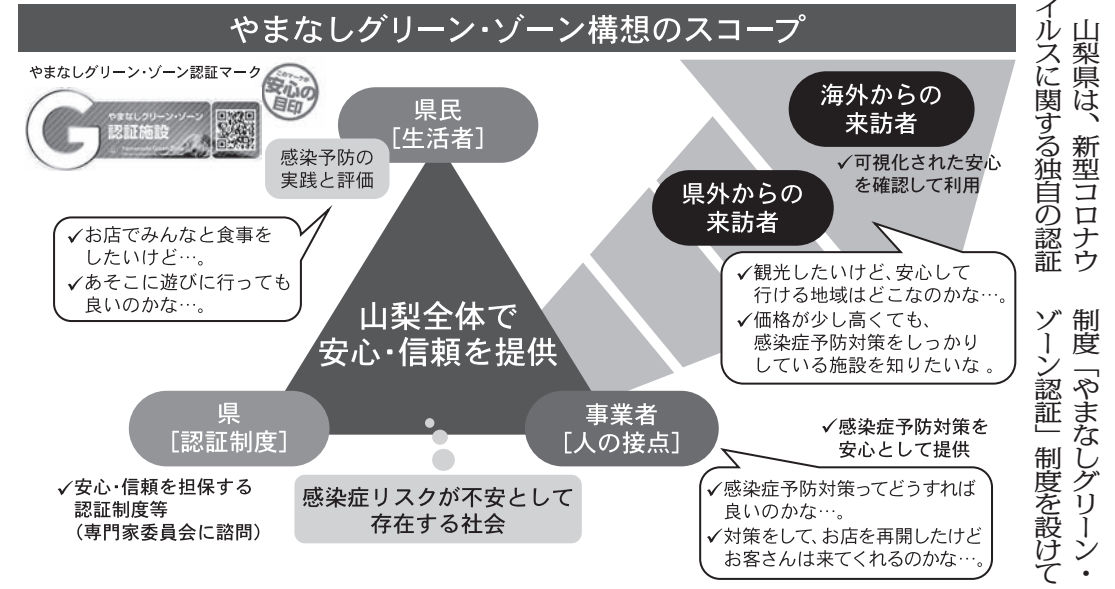


逆境乗り越え、新たな未来の創造へ

# 「認証制度」で安全安心アピール

新型コロナウイルス禍で落ち込んだ観光客を呼び戻そうと、旅館・ホテルや飲食店などを認証施設として登録、安全安心をアピールする自治体が増えている。ここでは山梨県、鳥取県、栃木県那須塩原市、兵庫県豊岡市の取り組みを紹介する。観光客が観光地、事業者を選ぶ目安となっている。一方で、認証施設でウイルス感染者が出ないとも言え切れず、観光客も感染防止対策を怠らないよう心掛けるべきだろう。



山梨県は、新型コロナウイルス感染症に関する独自の認証制度「やまなしグリーン・ゾーン」認証制度を設けて、観光客の安全安心をアピールしている。

## 山梨県 やまなしグリーン・ゾーン認証制度

## 宿泊施設など2500超取得 支援金制度も創設

12月11日現在、宿泊・飲食施設(ライナー)の計2549施設が取得。このうち、宿泊施設は851軒となっている。

同制度は、利用者に安心して使ってもらえるよう、県が示した基準に基づき、感染予防対策に適切に取り組む宿泊施設や飲食店などを認証するもの。各施設からの申請を受けた後、書類審査や現地確認を経て、問題がなければ認証する。

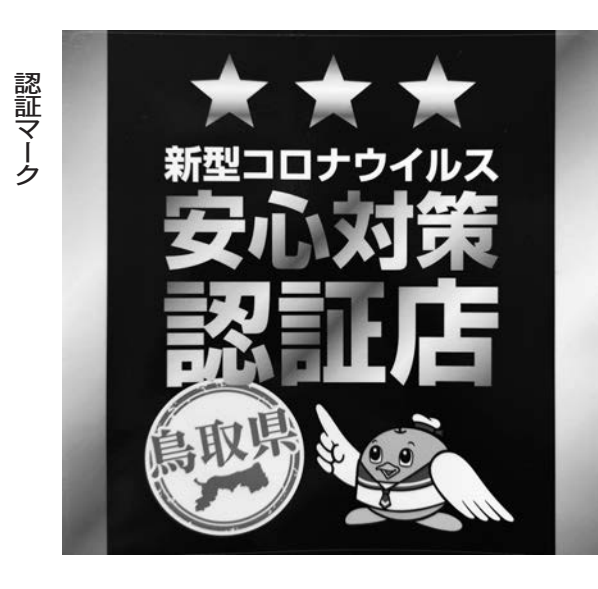
施設に交付する認証マークは、緑色を基調に「G」の文字と、対策内容を認めるためのQRコードを付けている。

より多くの施設に認証を取得してもらうため、感染予防のための支援金制度も設け、宿泊施設には最大300万円まで支給する。対象となるのはフロントや飲食店などのテーブルに設置するアルコール消毒液の購入、キャッシュレス決済環境整備など。

認証を受けた施設では、入館・受付の際、入り口での手指消毒、エレベーターや送迎車の人数制限の実施などを実施する。

ただ、11月に認証を受けた旅館・ホテル、飲食店など、感染リスクが大きい施設は、店側は認証基準を順守し、落ち度はないことから、認証は取り消さなかった。県は利用者に対し、改めて店側の対策に役立つよう求めた。

店側が安全に配慮しても、利用者がリスクを感知すれば感染拡大リスクを排除することが難しいことが浮き彫りになった。



## 鳥取県 新型コロナウイルス対策認証事業所制度

鳥取県は2020年6月、「新型コロナウイルス対策認証事業所制度」を設けた。感染予防のモデル的な店舗を「認証店」として認定する制度だ。

①新型コロナウイルス感染症に対して安心して利用できる事業所を認証、公表することで県民の不安感を解消

②認証施設の利用促進を図ることで、経済活動の回復につなげる

③感染予防の模範となる

県は感染予防に積極的に取り組む店舗を「協賛店」として登録しているが、認証店は協賛店の中でもより厳格に評価され、他店の模範となる店舗に与えられる。

認証店は、原則としてガイドラインの全項目をクリアし、県職員による立ち入り検査で手順書通りに実施されているか確認を受けることが必要で、専門家対策は受託と判断した場合、認証事業所の第一号は鳥取県が公表された。

## モデル店を「認証店」に ホテル中心に42事業所認証

取組む店舗を「協賛店」として登録しているが、認証店は協賛店の中でもより厳格に評価され、他店の模範となる店舗に与えられる。

認証店は、原則としてガイドラインの全項目をクリアし、県職員による立ち入り検査で手順書通りに実施されているか確認を受けることが必要で、専門家対策は受託と判断した場合、認証事業所の第一号は鳥取県が公表された。

取得を呼び掛けている。



## 豊岡市 クリーン・アンド・セーフ・トヨオカ

兵庫県豊岡市は市内の宿泊施設や飲食店、物産店などを対象に、新型コロナウイルス感染症対策認証制度「クリーン・アンド・セーフ・トヨオカ」を実施している。

観光地としての受け入れ態勢や公衆衛生の向上、安全安心な観光地づくりが目的。感染症対策ガイドライン、および感染症対策の専門家の意見を踏まえて作成した対策項目に取り組み事業者から出された取り組み項目のチェックシートを委員会が確認し、全ての項目にチェックが入っている施設を認証する。

認証主体は市、観光協会などで作る豊岡ツーリズム協議会、観光まちづくり組織(DMO)の豊岡インバウンドで構成するクリーン・アンド・セーフ・トヨオカ委員会。

事業者から出された取り組み項目のチェックシートを委員会が確認し、全ての項目にチェックが入っている施設を認証する。



## 認証主体は委員会 旅館・ホテルなど130軒認証

施設を認証する。チェックシートは共通の約30項目に加え、業種別の項目を設けた。

宿泊施設については、▽旅行者が体調不良の場合、キャンセルしやすいような仕組み(キャンセル料を免除する、予約日の振替え対応をするなど)を導入している▽チェックインの際に全員に検温と本人確認を実施している。発熱がある場合や風邪症状がみられる場合は保健所の指示を仰ぎ、適切な対応をとる準備をしている▽ビュッフェ方式で食事を提供する場合は、食器の個別提供、従業員による取り分け、もしくは個別のお客さま専用トングや箸を用意し、共用を避けるなど料理の提供方法を工夫している。など細かく定めている。

認証されたら、ロビーの認証ポスターが交付される。事業者はポスターやロゴを活用して安全さをアピールできる。

12月18日現在、409事業者が認証を受けており、宿泊施設は130軒ほどとなっている。

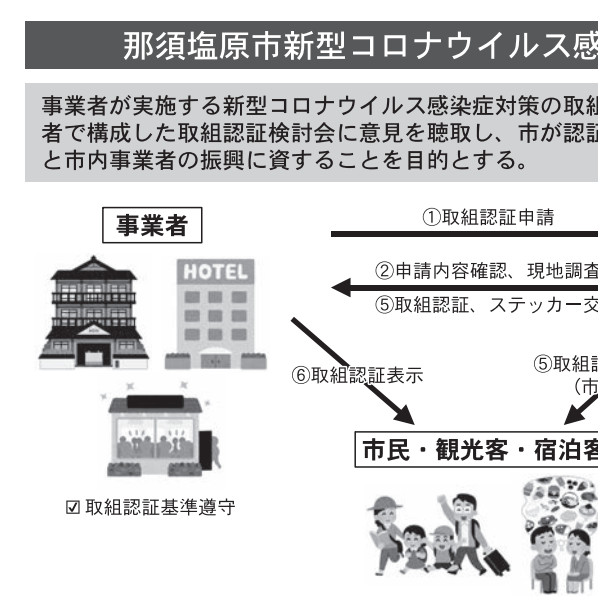


城崎温泉

## 那須塩原市 新型コロナウイルス感染症対策認証制度

栃木県那須塩原市は、新型コロナウイルス感染症対策認証制度を創設し、観光客の安全安心をアピールしている。

対策を講じた宿泊施設などを認証する制度を始める。



## 2月から旅館の申請受付 認証は二つに区分

認証した事業者には認証ステッカーを交付するとともに、市のホームページで公表する。観光客が施設を選ぶ際の目安にしてもらう。

この制度は「新型コロナウイルス感染症対策認証制度」で、事業者が実施する感染予防対策の取り組みについて、有識者でつくる取組認証検討会の意見に基づき、市が認証する。

12月18日付で実施要綱を告示。21年1月には認証基準を策定し、2月から旅館を中心に申請受付を始める予定だ。

認証対象は旅館業などの感染リスクの高い市内の事業所施設で、対象は順次拡大していく。

ある旅館経営者は各地で認証制度創設の動きがあることを踏まえ、「安全安心な施設である」と市が保証するメリットはあっていると見ている。具体的な認証基準が明らかになっていないので、申請の方角で考えている」と話す。



塩原温泉